

■AI・IoT

[1] フォルクスワーゲン、グーグルと量子コンピュータで提携《ドイツ》

フォルクスワーゲン（VW）グループは 11 月 7 日、グーグルと量子コンピュータを活用する 3 つの研究プロジェクトで提携すると発表しました。VW は近年、自動車の製造・販売だけでなく、自動車へ搭載する新たなデジタル機能の開発にも積極的に取り組んでいます。

VW によると、これらのプロジェクトには、交通管理システムの改善、電気自動車用バッテリー等のための素材の構造シミュレーション、自動運転のための人工知能（AI）の研究が含まれています。

VW は、排ガス不正を巡るスキャンダル後、包括的な事業刷新を進めており、近年は特に電気自動車や配車サービスをはじめとする新しいデジタルサービスの開発に多額を投資しています。同社 CIO のマーティン・ホフマン氏は、量子コンピューティングが商用化される際には、同社はそれを使う最初の企業の一つとなることを目指すと述べました。

グーグルは、今回のプロジェクトのために量子コンピュータへのアクセスを提供します。

VW は、既に今年 3 月から、中国で 1 万台に及ぶタクシーの流れを最適化するため、他の会社の量子コンピュータを使うプロジェクトを立ち上げています。

[2] ピョンチャン五輪開幕 100 日前 - ICT 五輪広報本格化、5G 試験サービス準備完了《韓国》

ピョンチャン冬季五輪開催 100 日前を迎えた 11 月 1 日、大会期間中に韓国の戦略 ICT サービスを体験できる ICT ラウンジが仁川空港にオープンしました。ICT ラウンジは、ピョンチャン五輪で披露する 5 種の戦略サービス（5G、IoT、UHD、AI、VR）を体験できるスペースとして、各国選手団の出入国時の休憩スペースに整備されました。ラウンジの運用期間は今年 11 月から来年 3 月までです。このような、五輪で活用される ICT の本格的な展示のオープンは、今回が第 1 号となります。

韓国政府は五輪開催 100 日前を契機に、本格的な五輪広報に乗り出しました。年内に、映画館最大手シネマコンプレックス（CGC）の国内 70 か所の上映館で 3 面映像を活かした五輪広報映像が流されます。ピョンチャン五輪を見据えた ICT 体験スペースとして、ピョンチャン ICT 体験館が近日中にオープンし、さらに今後、様々な IoT サービスを体験できるカンヌン IoT Street（12 月オープン）とカンヌン ICT 広報館（仮称、2018 年 1 月オープン）が整備される予定です。

ピョンチャン冬季五輪の公式通信パートナー企業の KT は、大会期間中に披露する 5G 試験サービスの準備完了を 10 月 29 日に発表しました。試験サービスで活用するサムスン電子の対応タブレット端末もこれに先駆けて披露されました。KT は、五輪 TOP パートナー企業の米インテルとの、ピョンチャン五輪 5G 試験サービスでの協力計画も 10 月末に発表しました。聖火リレーコース上の各地のイベント会場には KT の移動型 5G 体験ゾーンが設

営され、大会より一足先に 5G 試験サービスの体験機会が提供されます。

■コネクテッド・カー／自動運転

[3] トランプ政権、自動運転車ガイドライン改定へ《米国》

エレイン・チャオ運輸長官は 11 月 2 日、トランプ政権が早くも無人自動運転車の連邦ガイドライン改定を進めていることを明らかにしました。

運輸省が前オバマ政権の自主的で柔軟な自動運転車のためのガイドラインを引き継いで、自動運転車を実現する環境を整えるための枠組みを発表したのは今年 9 月です。しかし、自動運転技術の急速な進展に対応するため、早速改定作業に着手することになったとのこと。

今年 9 月に発表された「A Vision for Safety 2.0」では、自動運転車メーカーの安全評価チェックリストが 15 項目から 12 項目に削減され、また、倫理・プライバシー問題の考慮を促す勧告は削除されました。

新しいガイドラインでは、自動運転車の法制化における連邦政府と州政府の役割の明確化を目指すとともに、レベル 3 以上の自動運転車にのみ適用されます。ガイドラインを遵守するかどうかはメーカーの自主性に任されています。

業界はこの方針を歓迎していますが、交通安全団体などからは自主的ガイドラインでは公共の安全を十分に守れないのではないかと懸念する声も出ています。

[4] 産学官連携コンソーシアム UK Autodrive、コヴェントリーでコネクテッド・カーと自動運転車の公道走行実験を開始《英国》

産学官連携コンソーシアム UK Autodrive は、11 月 17 日、コヴェントリー中心部でコネクテッド・カーと自動運転車の公道走行実験を開始したと発表しました。

UK Autodrive のプロジェクトパートナーであるジャガーランドローバー、フォード、タタモーターズ欧州技術センター (TMETC) は、共同でコネクテッド・カーの様々な機能の実験を開始しました。実験中の技術のうち、今回の共同実験ではコネクテッド信号機、緊急車両警告、緊急ブレーキ警報を使って互いに「話す」ことができるコネクテッド・カーの利点を研究しています。

一方、ジャガーランドローバーと TMETC は共同実験とは別に、それぞれが自動運転車の研究技術を実験しています。この実験は現実の環境における自動運転車の技術を開発するために行われていますが、訓練されたテストオペレーターが常に車を監督しています。

2018 年初めに、コヴェントリーとミルトンケインズでさらなる試験が予定されており、同年後半に両都市で一般道路での最終的なデモイベントが行われる予定です。

■ネット中立性

[5] FCC、ネット中立性規則廃止案を発表《米国》

米連邦通信委員会（FCC）は、11月21日、ブロードバンド業界に対する規制を緩和し、ネット中立性規則を廃止する案を発表し、これを12月14日の採決にかけることを明らかにしました。

現行規則の多くは、一般世帯向けインターネット・サービスやモバイル・インターネット・サービスを提供するISPをコモンキャリアに分類したことで法的根拠を得ていますが、アジト・パイ FCC 委員長はこの分類を改めることを提案しました。採決では、過半数を占める共和党委員が規則廃止に賛成すると見られています。

パイ委員長の案では、ネットワーク管理について消費者に開示するよう ISP に義務付けた項目などの一部を除いて、現行規則は概ね廃止されます。

FCC は今年 5 月、ネット中立性規則を廃止する規則制定提案公示（NPRM）を出し、パブリックコメントを募集開始しました。インターネット・ユーザーの多くは廃止に反対しており、重複を除いた一意のコメントの 98.5%が規則廃止に反対する内容だったとの分析もあります。

FCC がネット中立性規則廃止案を採択した場合には、規則支持派がその維持を求めて FCC を提訴する可能性が高いと見られています。

この場合、原告は、FCC の規則廃止の根拠が誤っている、あるいは意思決定プロセスが不適切などと主張することが考えられますが、裁判所はこれまでコモンキャリア規則適用の是非については FCC の判断を尊重する判決を下しています。